

研究主題

個別最適な学びを実現するための自己調整力の育成

～学年・教科担任制を生かして～

昨年度は、「学年・教科担任制を生かし、児童の学びの質を向上させる指導体制の構築～主体的に学ぶ児童の育成～」という研究主題で研究をすすめました。学年・教科担任制を取り入れたことで、児童が複数の教員と関わる機会が増え、以下のようなアンケート結果となりました。

「いろいろな先生が教えるようになって、授業がよくわかるようになった。」…96.1%

「いろいろな先生が教えるようになって、授業が楽しくなった。」…96.7%

昨年度のアンケートでは、学校全体において肯定的な回答が9割を超えていました。

また教員も各教科の特性を生かした導入や教材・教具の工夫を行い、授業改善に取り組むことができました。

今年度は学年・教科担任制2年目となり、教科によって教員が変わることに児童が慣れてきたように感じています。今年度の第三小学校では、1・2年生では音楽、図工、体育、3年生では理科、音楽、外国語活動・道徳、4年生では社会、理科、外国語活動・道徳、5年生では国語、社会・道徳、家庭科・総合、6年生では国語、社会・道徳、外国語・家庭科を教科担任制で授業しています。

児童アンケートの結果を踏まえて、「いろいろな先生の授業が受けられるのが嬉しい。」
「先生によってやり方が違うから、気分が変わって良い。」
「気持ちが切り替わって、授業に集中できる。」
「自分のことをよく見て、分かってくれる先生が増えて嬉しい。」と肯定的に捉えている児童の実態を大切に、教科の専門性を高めながら子どもたちのよさや頑張りを認める機会を増やして、自己調整力を伸ばす授業を目指してこれからも研究をすすめていきます。